

會 務

第 20 卷 第 5 號 昭和 9 年 5 月

役 員 會

臨時役員會

開催日 昭和 9 年 4 月 12 日

出席者 會長 久保田敬一君
 前會長 田邊朔郎君 那波光雄君
 副會長 米元晋一君 草間偉君
 常議員 内海清温君 衣斐清香君 池邊稻生君 田邊良忠君
 神原信一郎君 金森誠之君 河原直文君 永田民也君
 那須章彌君
 常議員兼主事 古川淳三君 常議員兼編輯長 田中豐君
 常議員兼主計 佐藤利恭君
 外會館設立準備委員 井上秀二君 錢高作太郎君 書記長 柴原龍兒君

協議事項

會館設立準備委員會報告に關する件

井上委員長より會館設立案の内容並に現在及び將來の經營方針等に就き委員會に於て調査したる結果を報告し協議し結局本案は保留することとせり。

第 4 回 役員會

開催日 昭和 9 年 4 月 16 日

出席者 會長 久保田敬一君
 前會長 那波光雄君 名井九介君 眞田秀吉君
 副會長 米元晋一君 草間偉君
 常議員 池邊稻生君 衣斐清香君 神原信一郎君 河原直文君
 鈴木雅次君 永田民也君 野口寅之助君
 常議員兼主計 佐藤利恭君 同兼主事 古川淳三君
 同兼編輯長 田中豐君

協議事項

1. 視察旅行に關する件

信濃川發電所並に新潟港の視察旅行を 6 月 10 日に開催することに決定す。

2. 土木學會徽章制定に關する件

數種試作せる實物見本中より卷頭に掲示せるものに決定す。

3. 5 月開催見學會に關する件

5 月 12 日(土曜日)山口貯水池を見學することとす。

4. 萬年會寄附工業獎勵金に關する件

日本工學會セメント試験方法調査委員會を本學會より推薦することとす。

5. 20周年記念會館に關する委員會の件

會館設立案を保留し先以て會館の擴張を計畫することとして委員會名稱を表題の如く改め從來の委員により調査實行することとする。

6. 他學會及び協會との連絡に關する件

他學會及び協會と事業上の連絡を計る爲、連絡代表員を次の通り依頼することとする。

鐵道協會	久保田敬一君	道路改良會	佐藤利泰君
港灣協會	鈴木雅次君	銲接協會	田中豊君
工政會	池邊稻生君	土木業協會	那波光雄君
日本工人俱樂部	古川淳三君	水道協會	草間偉君
電氣學會	神原信一君	建築學會	森井健介君

7. 入退會に關する件

淺井武君外 75 名を會員に、阿部光君外 117 名を准員に、谷藤正三君外 2 名を學生員として入會を承認し、阿部良隆君外 261 名の准員を會員に轉格承認せり。准員山鹿常吉君は死亡の届出ありたり。

編輯委員會

第 4 回 編輯委員會

開催日 昭和 9 年 4 月 9 日

出席者 編輯長 田中 豊君
 委員 青木 楠 男君 龜田 素君 末森 猛 雄君 中原 壽一 郎君
 永田 年君 野口 誠君 星野 茂 樹君 堀越 一 三君

協議事項

1. 第 20 卷第 3 號所載下記論說報告の討議依頼先を決定す。

上水道に於ける二重濾過の實驗的考察	會員	島崎 孝 彦著
中央線急行電車運轉に伴ふ工事に就て	會員	工學士 立花 次 郎著

2. 第 20 卷第 3 號所載論說報告、彙報及び參考資料に對する謝禮の階級及び金額を決定す。

3. 第 20 卷第 4 號に下記を追加す（事後承認）

討 議

琵琶湖運河及日滿運輸聯絡問題	會員	工學士 大島 太 郎
同上	著者	會員 工學博士 田 邊 朔 郎

彙 報

第 1 回國際大堰堤會議に於ける決議事項	會員	工學博士 神原 信一 郎
----------------------	----	--------------

4. 第 20 卷第 5 號登載論文を下記の通りとす。

論 說 報 告

土讃北線吉野川橋梁のケーブル・エレクションに就て	會員	工學士 淺間 逸 雄
	會員	工學士 稻石 洋 八 郎
機關車動輪の釣合錘が軌道に及ぼす影響に就て	會員	工學士 井 上 隆 根

討 議

都市高速鐵道網に就て	會員	工學士 安 倍 邦 衛
------------	----	-------------

都市高速鐵道網に就て	著者	會員	工學博士	小野	諒	兄
彙報						
國立公園に建つ山小屋建築設計圖				編輯	係	
加茂川改修工事概要	會員	工學士	三宅	發	造	
白岩川改修工事概要	"	"	荒木	榮	二	
萩港修築工事概要	"	"	關谷	新	造	
宇部港修築工事概要	"	"	"			
田邊港修築工事概要	"	"	上田	柳	一	
東岩瀬港修築工事概要	"	"	荒木	榮	二	
木更津港修築工事概要	"	"	西	義	一	
特許抄録						
アスファルト鋪道材料更生法						地中に於ける構格構成方法
堰堤水門又は水路等に於ける流水の勢力減殺装置						地下建設物築造法
貯水池漏水防止法						
枝杭 道路鋪裝方法						3段施工式セメント・コンクリート鋪裝工法
參考資料						
電弧銲接に就ての最近の報告						(富田 惠吉)
天然の地山に於ける岩石の應力の構造状態						(野坂 孝忠)
立體曲線橋の計算						(")
コンクリートの有効面空隙率						(")
コンクリート強度に及ぼす温度影響						(")
汚水處理費に就て						(板倉 誠)
Genova 港に於ける海洋波壓力の測定						(本間 仁)
附録						
大久保公と土木公債						伊藤仁太郎
5. 第20卷第6號登載論文を下記の通り暫定す。						
彙報						
宇田津港修築工事概要						杉山宗次郎
輪島港修築工事概要						"
唐津港修築工事概要	會員	工學士	谷			堅
6. 彙報蒐集に關する件。						
7. 抄譯に關する件。						
8. 土木工學論文集録編纂に關する件。						

20周年記念會館設立準備委員會

第3回 委員會

開催日 昭和9年4月2日

出席者 委員長 井上秀二君

委員 近新三郎君 衣斐清香君 那須章彌君 錢高作太郎君

副會長 米元晋一君 書記長 柴原龍兒君

協議事項

會館設立に就き調査研究の結果成案を得たるを以て第1案より第5案迄を作成し役員會に提出報告することとす。

講 演 會

日 時 昭和9年4月25日午後5時より

會 場 帝國鐵道協會

來 聽 者 210名

演題並に講演者

(イ) 高速度活動寫眞に就て(高速度活動寫眞映寫)

東京帝國大學教授

工學博士 栖原豊太郎君

(ロ) 日食觀測の爲南洋に旅して(ローソップ島映畫映寫)

東京天文臺長 東京帝國大學教授

理學博士 早乙女清房君

有志晚餐會 閉會後同所に於て有志晚餐會を開く出席者 32名

土木學會關西支部記事

○昭和9年4月11日午後5時30分より大阪市中央電氣俱樂部に於て第3回關西支部役員會を開催し支部長松島寛三郎君外役員9名出席下記事項を協議せり。

協議事項

1. 春季見學會の件

(イ) 5月26, 27兩日決行の事

(ロ) 見學先は神明及び明姫園道とす

2. 第5回土木工學研究會演題の件

(イ) 1. 土木工事機械の應用

2. 長尺軌條に就て

3. 防水工事

4. 地下鐵道の新工事方法

5. 熱海線丹那隧道湧水トンネル工事

(ロ) 1. 土木工食用材料に就て

2. 土木工食用機械に就て

3. 最近の橋梁設計の傾向に就て

4. 最近の水道設備に就て

3. 賛助員に關する件

森榮藏君外2名の賛助員に關し協議せり

○昭和 9 年 4 月 28 日午後 3 時 30 分より大阪市中央電氣俱樂部に於て話題滿洲國に於ける土木事業に就て關西支部座談會を開催せり

日 本 工 學 會 記 事

○昭和 9 年 4 月 19 日午後 5 時より日本工業俱樂部に於て日本工學會臨時評議員會を開催し下記の事項を決議され次で一般會務の報告ありたり。

- 1. 理事長及び理事の任期満了に付互選の結果男爵斯波忠三郎君理事長に佐野利器君庶務理事に（以上重任）西脇吉久君會計理事に當選就任せり

維新以前日本土木史編纂委員會

第 18 回維新以前日本土木史編纂委員會

日 昭和 9 年 4 月 30 日

副委員長 眞 田 秀 吉君

委 員	安 藝 杏 一君	前 川 貫 一君	久 野 直君	茂 庭 忠 次 郎君
	江 澤 甚 一君	小 川 織 三君	板 井 申 生君	那 波 光 雄君
	名 井 九 介君	池 本 泰 兒君	大 河 戸 宗 治君	眞 島 健 三 郎君

幹 事 古 川 淳 三君

囑 託 渡 邊 俊 一君

因務技師を委員に依頼すること

川改修工事に關し坂田技師へ照會を發送すること

行先印刷物

参考文獻

表に表はれたる全部門に渉る目次

主査

部 門 治水堤防運河及砂防

主査	眞 田 秀 吉君
同	前 川 貫 一君

部 門 開墾干拓及埋立

同 有 働 良 夫君

部 門 溜池灌漑及排水

部 門 航路港津及標識

同 安 藝 杏 一君

部 門 道路橋梁渡場及關所

同 牧 野 雅樂之丞君

部 門 都市造營

同 那 須 章 彌君

部 門 城壘（臺場石垣を含む）

同 山 内 靜 夫君

部 門 水道（掘井を含む）

同 茂 庭 忠 次 郎君

第9部門 測量(度量衡を含む)
 第10部門 土木行政
 第11部門 雜(施工法の變遷)

主査 伴 宜君
 同 江澤 基一君
 同 眞島 健三郎君

常務委員

委員長	田邊 朔 郎君	副委員長	眞 田 秀 吉君
委員	江澤 甚一君	島 重 治君	前川 貫一君
	直木 倫太郎君	安 藝 杏一君	久 野 直君
	小川 織三君	那 須 章 彌君	眞島 健三郎君
	山内 靜夫君	遠 藤 元 男君	板井 申生君
	平井 喜久松君	牧野 雅樂之丞君	那波 光雄君
	丹治 經三君	伴 宜君	有 働 良 夫君
	池本 泰兒君		
幹事	古川 淳三君	佐 藤 利 恭君	

地方委員

坂本 丹治君	辰馬 鎌藏君	金古 久次君	木津 正治君
坂本 助太郎君	高西 敬義君	青山 士君	三浦 義太郎君
上野 節夫君	櫻井 哲三君	村山 喜一郎君	伊藤 駿君
丸山 悦三君	木幡 長命君	土肥 憲二郎君	荒木 榮二君
川越 篤君	中村 孫一君	田中 三郎君	西 義一君
三輪 周藏君	吉岡 計之助君	大石 巖君	淺見 洋君
飯島 馨之助君	兒玉 靜雄君	岩崎 雄治君	木村 憲七郎君
宮島 三郎君	宮内 義則君	上田 柳一君	平川 保一君
岸田 正一君	長谷川 勝伍君	關谷 新造君	竹内 常八君
後藤 季總君	田邊 良忠君	川上 國三郎君	横山 喬君
春藤 眞三君	河合 清君	坂本 一平君	谷 堅君
楠 宗道君	榊 井 照藏君	中山 熊雄君	山田 一君
中川 幸太郎君	千葉 芳君	青木 治助君	菅 良二君
伊藤 長右衛門君	金子 源一郎君	長濱 時雄君	藤田 周造君
村瀬 吉雄君	兵藤 直吉君	三宅 發造君	北原 嶸君
山口 十一郎君	城戸 鎖吉君	以 上	

その他の記事

- 昭和9年4月10日付にて一般會員に4月25日開催講演會の通知をなせり。
- 昭和9年5月12日開催山口貯水池見學を第20卷第4號會誌にて緊急會告として通知せり。
- 昭和9年4月24日土木學會誌第20卷第4號發行の成規の手續きを了し4月25日これを全會員に配布せり。
- 昭和9年4月16日までに於て下記諸君を入會又は轉格の手續きを了し名簿に登録せり。

入 會 々 員

淺井 武君	足立 三男君	石野 友次郎君	今中 權六君
漆原 勝治君	宇佐 美四郎君	遠藤 竹三郎君	奥田 正男君
小川 昌光君	小里 彌之亮君	大西 英弍君	大野 正樹君

大岸九鬼夫君	上 坏 勝 雄君	垣 本 一 之君	旭 芳 雄君
伊 集 院 久君	一ノ谷 孝 三君	岩 田 一 實君	宇 野 良 平君
上 田 長 好君	岡 巖 一君	岡 本 昇君	片 掛 重 次君
小 松 悌 治君	後 藤 虎 吉君	佐 藤 鼎君	坂 野 昇君
重 住 文 男君	淨 法 寺 朝 美君	城 谷 淳君	清 水 力君
城 崎 千 駿君	鈴 木 昭君	慇 犛 甲 藏君	高 橋 八 十 八君
田 代 秀 吉君	田 中 幸 二君	土 田 喜 久 雄君	辻 井 富 之 助君
菅 平 二君	小 長 井 喜 久 雄君	坂 本 吉 次君	白 根 治 一君
高 橋 勝 年君	武 田 和 吉君	永 瀨 勝 君	花 房 利 一君
眞 部 要 藏君	長 澤 健 太 郎君	乘 田 貞 信君	野 原 寛 藏君
萩 原 次 郎君	八 甫 谷 秀 郎君	原 田 太 郎君	深 井 浩 三君
藤 末 義 男君	細 祐 次 郎君	増 澤 重 也君	光 井 三 郎君
茂 木 亮 君	矢 野 善 治君	四 谷 喜 幸 君	横 田 律 夫君
杉 山 宗 次 郎君	松 山 教 三君	山 神 斐 夫君	山 里 直 三君
山 本 亨 君	野 口 昇 作君	松 野 正 志君	渡 邊 榮 五 郎君
大 和 芳 雄君	土 本 基 君	石 野 正 信君	久 田 鑑 一君
	入 會	准 眞 一君	
安 部 浩 資君	荒 井 豐 樹君	淺 井 周 一君	相 川 晴 治君
赤 井 主 計君	石 井 克 彦君	今 井 四 郎君	石 田 聖 君
猪 瀬 寧 雄君	石 井 晃 夫君	岩 村 京 潔君	井 關 延 雄君
上 野 美 喜 世君	上 山 敏 夫君	緒 方 京 治君	太 田 武 夫君
大 串 石 藏君	小 川 恒 治君	岡 村 雅 夫君	小 表 三 郎君
木 谷 公 夫君	大 西 保 夫君	大 槻 重 久君	金 木 明 夫君
龜 田 蕃 君	片 山 廣 勝君	河 原 田 忠 正君	木 村 庄 一 郎君
川 副 肇 君	河 村 繁 君	萱 野 米 政 雄君	櫛 橋 喜 隆 治君
木 村 道 儀君	桑 野 重 勝君	久 藤 進 君	佐 藤 井 秀 次君
今 野 萬 次君	後 藤 眞 一君	齊 藤 四 郎君	坂 下 山 秀 松君
佐 藤 清 君	齊 藤 鑄 夫君	島 田 光 君	妹 尾 俊 一君
澤 田 康 治君	神 保 敏 一 郎君	關 川 精 一 馬君	竹 田 福 三 郎君
須 和 俊 三君	鈴 木 駿 一 君	竹 田 陽 二君	瀧 川 光 一 君
田 畑 義 一 郎君	竹 上 義 次君	高 岡 利 雄君	野 宮 秀 雄君
竹 內 英 義 已君	高 浪 葉 秀 雄君	寺 西 尾 市 正 運君	平 岡 目 直 也君
中 川 左 武 郎君	茄 子 川 定 君	平 古 井 秀 郎君	星 丸 村 望 一君
野 崎 矩 已君	早 野 規 矩 君	松 井 藤 又 三 郎君	丸 井 月 計 信君
廣 瀨 清 一君	福 田 秀 夫君	武 藤 本 誠 吉君	米 阿 伊 藤 川 政 吉君
松 尾 茂 君	松 本 義 雄君	吉 丸 喜 久 郎君	伊 藤 玉 邊 昌君
三 村 通 精君	溝 井 勝 政君	淺 田 喜 久 郎君	
武 藤 一 左 久君	向 吉 見 康 男君	明 山 長 一 郎君	
山 口 富 三君	吉 吉 村 敏 君	柴 田 元 衛君	
秋 本 健 三君	秋 田 玉 三 郎君		
小 倉 義 人君	大 畑 活 三君		
土 門 四 男 治君	中 森 重 一君		

三輪好年君
石原大君
緒方固夫君

村松熊男君
辰巳允男君
谷川滿壽男君

山田昌君
井森勇君

村松秀雄君
小野一良君

學 生 員

大角正三君

鎌本雅夫君
轉 格

谷藤正三君
會 員

阿部良隆君
新井文藏君
芥川暉雄君
井關正雄君
磯谷道一君
宇田忠三君
內山實君
浮田祐二君
江藤海雄君
小田川利喜君
緒方重吉君
大津寬君
金丸廣貞君
河野愛香君
木村武夫君
菊地新吉君
岡本但夫君
加納儉二君
倉谷克彥君
熊倉真三君
小山猛三君
小谷廉君
近藤伊作君
河野要三君
佐藤文哉君
佐分利三雄君
坂本敏一君
重松俊松君
島田登一君
杉橋涉君
鈴木信次君
田中孝君
田中正志君
高野代次君
瀧本益次君
玉置殿君
德永氏吉君

安藝眞孝君
荒井力君
秋山和夫君
井上清太郎君
磯田謙雄君
上田秀正君
內山祥一君
梅澤景秀君
遠藤塚君
小川靜君
大林勇治君
大津武夫君
鴨打秀利君
河戶萬吉君
木村良雄君
菊池明君
岡村源一君
吉川宥直君
倉島一夫君
栗田日出次郎君
小味淵肇君
後藤佐吉君
香坂兼夫君
佐藤藤石藏君
佐藤廉平君
佐野俊男君
櫻井辰造君
重森幹之助君
島田昇二君
杉本禮三君
炭竈一郎君
田中吉郎君
高木敏雄君
高野宗久君
竹島清一君
千々和正君
寺田金司君

安藝皎一君
蘆田英太郎君
淺尾基彥君
伊藤文雄君
石井銃三君
上野豐次郎君
內田靜夫君
浦要治君
江口辰五郎君
小崎弘郎君
大村良君
加來照明君
川野通之君
菅野半之進君
北村兵之助君
君島興一君
岡田廣君
黑田重治君
草川清康君
小林一惠君
小田真太郎君
後藤久吉君
權平昌司君
佐藤岩治君
佐藤義正君
齋藤四郎君
笹倉外三郎君
柴田直道君
島崎亮吉君
鈴木直彥君
千秋邦夫君
田中正次君
高木健吉君
高橋守一君
立川大市君
堤榮左衛門君
土岐秀雄君

青野隆次君
有松秀雄君
淺井政治君
市川順市君
岩岡武博君
上野長三郎君
歌代吉高君
衛藤正規君
榎本萬里君
尾崎秀之君
大西朝雄君
金井好助君
川上政一君
木村又左衛門君
木村正孝君
岡本港君
加藤要一郎君
黑田靜夫君
樟本秀樹君
小林幸次君
小坂進君
近藤信一君
權藤濟美君
佐藤藤哲夫君
佐羽內吉郎君
坂元左馬太君
清水乙吉君
澁谷和夫君
篠瀬玉造君
鈴木優次君
善如秀太郎君
田島正彥君
高田昭君
高橋和平君
谷本治三郎君
辻川勝雄君
土谷菊雄君

洞庭謙君	内藤俊雄君	中川正一君	中谷茂一君
中村廣男君	中津海慎二君	中本茂君	永田八郎君
長嶺要君	成田謙治君	丹羽良彦君	丹羽武雄君
西川延喜君	西村正人君	西本竹吉君	服部渡君
幡鎌俊次君	原川康君	原田亮太郎君	長谷川藤四郎君
濱田稔君	濱田重民君	濱地辰助君	林田隆治君
林谷喜與治君	平松吉二君	平井彌之助君	引野通夫君
藤井松太郎君	藤井定一君	藤田正美君	藤原孝一君
船本貫時君	古谷寅雄君	細田貫一君	前園千代次君
前田一三君	前田長治君	牧野喬君	眞鍋準一君
町田保君	松尾愛亮君	松浦孝一君	松永博君
松村章君	松原祐一君	松田俊正君	三浦久藏君
三村頼治郎君	三好武夫君	水尻倉太郎君	宮川正雄君
溝田次雄君	右田七郎君	村山勝次郎君	椋本修造君
村中達次君	目黒雄平君	森四郎君	森田直治君
諸川敬直君	諸井英一君	八乙女正君	安宅勝君
築瀬武君	山口豫時君	山崎正雄君	山田鈞君
山田忠雄君	山地英之助君	山本正吾君	山本與一君
山本康平君	山本茂雄君	山下孝徳君	湯山熊樵君
横山勇君	横田利喜一君	吉川茂君	吉田興三右衛門君
吉田宅次君	吉岡重慶君	吉森憲一君	米原佐市君
和澤清吉君	和田嘉六君	渡邊彌作君	柴崎正君
大久保一郎君	黒田呂久三君	久米初次君	齋藤祐之介君
佐山哲君	瀬田一雄君	郷在英君	常葉隆一君
富田正通君	中村一俊君	野矢清君	本多篤行君
本並藤七君	松田勤次郎君	宮村茂雄君	山口直衛君
結城朝恭君	渡邊憲君	瀧澤和一君	杉浦義高君
小川喜七君	瀬川義輔君	伊藤幸一君	栗山又一君
根上清太郎君	渡邊六太郎君		

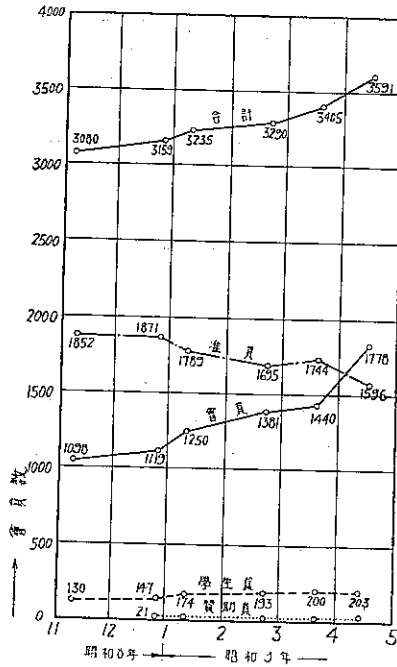
○昭和 9 年 4 月中に於て寄贈又は交換を受けたる雑誌其他下記の如し。

鐵道技術 4 月號	鐵道技術社
衛生工業協會誌第 8 卷第 3 號	衛生工業協會
日本鑛業會誌第 50 卷第 587 號	日本鑛業會
材料文献集(昭和 7 年發表國內論文抄錄集)	東大工學部應用化學教室材料研究會
國立公園第 6 卷第 4 號	國立公園協會
セメント工業 4 月號	セメント工業社
滿洲電氣協會々報第 23 號	滿洲電氣協會
セメント界彙報第 313 號 2 部	日本ポルトランド・セメント同業會
軟練モルタルに於ける九味浦砂混用に關する試験報告	〃
相馬標準砂に就て	〃
日本ニツケル時報	日本ニツケル情報局
建築と社會 第 17 輯第 4 號	日本建築協會
土木建築雜誌第 13 卷第 4 號	シビル社

工事畫報 Vol. 10, No. 4
 鑄物第 6 卷第 4 號
 工業現勢第 3 卷第 4 號
 美以都 4 月號
 工學 No. 236
 造船協會雜纂第 144 號
 セメント・コンクリート道路 No. 22
 工 政 168 號
 工業化學雜誌歐文綴 No. 4
 港灣廣島縣號第 12 卷第 4 號
 Excavating No. 3
 電氣學會雜誌第 54 卷第 4 冊
 鐵卜鋼第 20 年第 3 號
 工學部紀要第 3 冊第 5 號
 熊本工業會誌第 7 號
 資 源第 3 卷第 4 號
 Engineer 3 號
 建築雜誌大會論文集第 43 輯第 584 號
 = ツケル合金鋼の最新用途
 本邦工業化學研究業績概要
 基礎工第 2 卷
 玉 工第 7 卷第 2 號
 建築雜誌第 48 輯第 583 號
 帝國學士院紀事第 10 卷第 3 號
 工 人 4 月號
 機械學會誌第 37 卷 204 號
 衛生工業協會誌第 8 卷 4 號
 業務研究資料貨車施設の改良に就て第 22 卷第 7 號
 日立機械評論第 16 號
 理工學部紀要第 10 號
 實際家のメートル法意見
 日立評論第 17 卷第 4 號
 水 道第 9 卷第 4 號
 會 報第 35 卷第 4 號
 工學院同窓會誌第 36 卷第 5 號
 三菱電機第 10 卷第 3 號
 新潟港擴張計畫案概要
 日本建築士第 14 卷第 4 號
 國家の重要政策より見たる鐵道電化
 東京土木建築業組合第 7 卷第 4 號
 日本鑛業會誌第 50 卷第 588 號
 鐵道技術第 8 卷第 5 號
 上越線水上・石打間工事誌第 1 卷第 2 卷 5 冊
 昭和 8 年 3 月三陸地方津浪に關する論文及報告

工事畫報社
 日本鑄物協會
 東京工業大學
 熱田神宮々廳
 東京工學社
 造船協會
 日本ポルトランド・セメント同業會
 工政會
 工業化學會
 港灣協會
 三菱機械部
 電氣學會
 鐵鋼協會
 北海道帝國大學
 熊本高工熊本工業會
 資源局
 都市工學社
 建築學會
 日本=ツケル情報局
 工業化學會
 コロナ社
 攻玉社玉工同窓會
 建築學會
 帝國學士院
 日本工人俱樂部
 機械學會
 衛生工業協會
 鐵道大臣官房研究所
 日立評論社
 早稻田大學
 メートル協會
 日立評論社
 橫濱市水道局
 帝國鐵道協會
 工學院同窓會
 三菱電機株式會社
 港灣協會
 日本建築士會
 七日會
 東京土木建築業組合
 日本鑛業會
 鐵道技術社
 鐵道省
 地震研究所

會員移動一覽圖表



○死亡會員

會員常議員 那須章彌君は昭和9年5月逝去せられたり、本會は花輪及び弔詞を靈前に呈し哀悼の意を表したり

會 員 山本卯太郎君は昭和9年4月逝去せられたり、本會は弔詞を靈前に呈し哀悼の意を表したり

會 報

第 20 卷 第 5 號 昭和 9 年 5 月

役 員 會

第 4 回 役 員 會

通常役員會は 4 月 16 日開催す。氣候はよし、天氣はよし前會長 3 氏を始めとし例の如く役員皆出席にて午後 5 時より協議をはじめむ。

1. 視察旅行に関する件

長引いた冬籠りも 4 月の聲を聞いては我慢し切れず春の精氣は所々に動き初めてゐる。晴々した、長閑な 5 月、6 月旅行季節到れる哉である。學會の春季視察旅行を決定すべく先づ最初の議題となる。理事者に於て豫め立案せる計畫は相當多數あつたのであるが、先づ時間に制限され又費用にも限定されるため以下の 4 案を選定して協議を乞ふ事となつた。

第 1 案

第 1 日 土曜日午後上野驛發——水上温泉泊（懇親會開催）

第 2 日 水上發——鐵道省信濃川發電所——新潟港——同夜行にて歸京（費用約 23 圓）

第 2 案

土曜日夜行にて上野驛發——翌朝十日町驛着——鐵道省信濃川發電所——新潟港視察後
懇親會開催——同夜行にて歸京

第 3 案

第 1 日 土曜日午後上野驛發——水上温泉泊（懇親會開催）

第 2 日 水上發——川口——信濃川發電所——川口——同夜着京

第 4 案

第 1 日 土曜日午後浅草驛發——宇都宮國道——鬼怒川温泉泊（懇親會開催）

第 2 日 鬼怒川——日光——中禪寺——日光——浅草驛

この各々はどれも特色があり棄て難いのであるが唯第 4 案は少々時間に無理があるので結局第 2 案を基とし更に工合よきプログラムを研究し決定することとした。

2. 徽章制定の件

土木學會徽章の制定に就ては豫てより會員森井健介氏を煩はして種々構圖、様式等の研究中であつたが前回役員會にて優秀案 3 を選定し實物見本を製作し今回を以て決定することになつてゐた。依て森井氏の出席を乞ひ持參されたる見本により批評嚴選の結果本號巻頭に掲示せるものを採用する事に決定した。地金は純銀にて表面は「いぶし」となし「土木」の文字は浮出しに金着せとする豫定であるから相當濺い落付いたものが出來よう。

3. 5 月開催見學會に関する件

前回に於てなされた川崎の明葉、東京製鋼及び東京電氣の見學は果然好評を得、計畫側としても大に意を強うしたのであるが、今回は丁度新緑の季節に際してゐるので郊外散策の意をも含めて最近竣功なれる大東京の水の

守護神山口貯水池を見學することとして次の如きプログラムにて準備を進めることに決す。

5月12日(土曜日)午後1時東京驛前集合の上バスにて途中の道路状況を視察しつゝ村山を経て山口に至り貯水池を見學の上バスにて歸路につく。

4. 萬年會寄付工業獎勵金に関する件

萬年會とは從來學士院内にあり、學士院の職員によりて組織されて居るもので起原は工部大學時代に遡り、技術者の向上發展に資せんとして設立されたものであるが、その後會員減少により現在に於ては殆んど解散せる状態となり、その殘金の處分を工業獎勵資金として3ヶ年間に1000圓を支出する事となり、既に7年度には300圓を交付し尙8年度に300圓、9年度に400圓を交付する豫定になつてゐる。この補助金交付に就て希望の有無を本學會に通知して來たのであるが本會よりは日本工學會セメント試験方法調査委員會を適當なるものとして推薦することに決定した。

5,6,7は會務に於て報告せる如し。

編 輯 委 員 會

第4回編輯委員會を4月9日日本會々議室で開いた。議題は別項の通りで和やかな氣分で議事は進行した。

彙報が最近非常に豊富であるがその大部分は河川及び港灣に關するものである。その他のものにも蒐集すべきであるとの意見あり、各委員より各種工事關係者に依頼をなすと同時に學會よりも依頼することになつた。

抄譯に關しては從來と同様擔當者のみに限らず、廣く參考記事を蒐集することになつてゐるのであるが擔當者以外の寄稿が少ないのは甚だ遺憾とする所である。各委員もこの趣旨を以て蒐集せらるゝことを申ししたが會員諸君も振つて寄稿せられんことを希望して已まない次第である。

土木工學論文集録編纂に關してその経過を田中編輯長より詳細説明せられ今後の進行方法等に就ても種々協議を行つた。